

第6回 武蔵野市中学校給食検討委員会 議事要録

- 日 時：平成18年1月15日 午後6時30分～8時20分
- 会 場：教育委員会室
- 出席委員：佐々木委員長、原副委員長、伊藤委員、大久保委員、下山委員、高木委員、賞雅委員、田島委員、中野委員、長野委員、松野委員、三浦委員、森委員、屋部委員
- 事務局：山上教育長、金子教育部長、小野指導課長、平岡給食課長、小山、坂井
- 傍聴人：4人

開会

(第5回検討委員会議事要録の確認)

議題1 中学校給食の検討について

食に対する家庭の役割と給食の役割

【委員長】 中学校で給食を実施した場合の給食費の徴収方法や保護者の負担感について議題としたい。まず、最初に各市の給食費状況の資料をもとに、給食費の負担感について意見を聞きたい。

【委員】 給食費の徴収は給食法に基づいて行っていると思うが、内容はどうなっているのか。

【事務局】 給食法では、設備費や人件費などは公的負担となっており、食材費にあてる部分を給食費としていただいている。

【委員】 食材費については、公的な市の補助はあるのか。

【事務局】 就学援助という形で、支払い困難な家庭に対して扶助費としての支出はあるが、それ以外に食材費の補助はない。

【委員】 中学校給食で使用する食材費は、小学校の給食をもとにしてその質と量を試算できると思うので、その時点で献立に合わせて決めればいいのか。

【委員】 負担は低ければ低いほど保護者はありがたいが、多摩地区各市の給食費の平均値を参考にしながらということになるのか。

【委員】 食材は地元でとれたもの、無農薬のものを多く取り入れるようにして、季節感、

伝統的食文化などを重視したいということを考えると、それを反映させる給食費を考える必要があると思う。そう考えると平均値ではおさまらないこともあるのではないか。

【委員】 小学校の給食で今使っている食材のことを考えると、その価値は十分あるし、月約5,000円で給食を提供していただければ、非常にありがたいと思う。

【委員】 平均水準ということで278円、20日間と考えると、中学生の保護者にそんなに負担にはならない金額ではないか。

【委員長】 各市の状況を見ても、300円前後という金額になっているが、この金額をどう思うか、意見があれば聞きたい。

【委員】 300円前後という金額は安いと思う。個人的に弁当を作るともっと高くなってしまうので、この金額で栄養、季節感などを考えた給食であれば、もう少し高くてもいいと思う。

【委員】 自校方式と共同調理場では給食費は違うのか。

【事務局】 武蔵野市では自校方式も共同調理場も同じ金額だ。市によっては、自校方式の方が共同調理場の大量仕入に比べ食材購入が割高になるということで、高く設定しているところもあると聞いている。

【委員長】 次の課題として、選択性にした場合の申し込み単位と給食費の納入方法について検討したい。

【委員】 選択制でプリペイドカードを利用する方法がある。生活保護などの援助家庭は別の扱いにするとしても、武蔵野市でも新しい方式でということなら、プリペイドカードはいい方法だと思う。給食費の徴収ができないこともないし、給食費の納め忘れや、引き落とされなかったという心配をすることもない。

【委員】 休んで給食を食べないときの給食費はどうなるのか。6,000円払ったが1週間学校を休んだので、その分給食費を返すようなことは、食材費を考えたら難しいと思うが、弁当を買うのと同じように給食費も扱われるか。

【事務局】 給食費の払い戻しは、食材調達の関係があるので、急に休んだ場合は戻せないが2週間前までに長期の休みが分かれば戻すようになっている。特殊な例としては、インフルエンザ等で学級閉鎖になったときには、3日目から戻す措置もとっている。

その他、学校行事で明らかに給食を食べない日の分は3月の給食費で調整している。

プリペイドカードについては、近隣市では東久留米市が採用しており、1週間前までの申し込みになっている。予約期限がもう少し短い例としては、名古屋市が3日前になっているが、これらはいずれも外注の弁当方式になっている。名古屋市の場合は、駅弁の業者がやっていることもあって、直前でも対応が可能になったと聞いている。

武蔵野市の小学校給食は、食材の調達などがあるので、通常、試食会の申し込みを受ける場合でも10日間はいただいている。市では、民間業者のように給食以外に食材をまわせるような対応が難しい面がある。

【委員】 学校にもさまざまな事情があり、先生の負担を考えると短絡的な選択方法は避けるべきと考える。伝えたとか伝えてないといったやりとりの問題もあるだろうし、献立を見て食べるか食べないか選ぶということでもいいのかという疑問もある。そういう意味で、選択なら最低でも1カ月前とか、事情を確認する形で学期ごとにするなど、単純に申し込む形にしてやるのがいいのではないか。月の半ばでというのは、煩雑な仕事を学校現場に押しつけることになる。学校の先生からの話が前回あったが、授業をやりながら、学級経営をしながら、部活動を行いながら、また研究をしながら、その合間にやっていくということも考慮しなければならない。

【委員】 東久留米市の状況がわかるようであれば聞きたい。

【事務局】 東久留米市では、各学校に予約用の機械を置き事務室で集約し給食センターに伝えている。また、東久留米市ではA、Bという2種類のランチボックスを用意しているのでその集計もしている。このシステムは、集計と連絡を電話回線を利用したオンライン集計システムも出来ているが、費用対効果の問題も考えて今はオンラインは導入していないということだった。

【委員】 選択性の範囲が共通認識されていないように思う。この委員会の議論では、完全給食でみんな同じものを食べる方がいいという意見もあったと思うが、その場合でも、アレルギーの問題など、どうしても食べられない子どもがいるので、そういったレベルでの選択という方法があるという話だったと思う。また、給食費未納問題などを考えると、給食費を払いたくないという人は、弁当を選択してもらっても構わないという気もする。選択という言葉のイメージが分かりにくい。

【委員】 現実的な方向性を導き出していくことも検討委員会の目指すべきところだと思う一方、武蔵野市ならではの理想の形みたいなものを、この委員会の中で議論してその記録も残しておくべきなのではないかとも思う。

そこで、例えば一緒にいただきますをして、一緒にごちそうさまをするランチルームは、短い時間の中で理想とした形で給食を食べることができる一つの方法ではないかと思う。

また、学校の先生が給食、食育というようなことに専門的にかかわるのではなく、そこにボランティアなど、いろんな地域の方たちが係わって中学校の給食を運営するという、市民参加型の給食をランチルーム形式で、なおかつ自校式でできたら、すばらしい給食ができるのではないかと思う。非常に理想的なことで実現は難しいと思うが、武蔵野市なら

ではの考え方をこの委員会の中では記録として残しておきたい。

【委員】 弁当にこだわっている保護者も確かにいると思う。給食を望む保護者もいる中で、学校の負担を軽減し、短時間で給食をみんなが同じように食べるということであれば、ランチルームはとてもすばらしいと思う。

また、教室の机で給食を食べることが、果たして理想的な食の姿かということも疑問に思う。いろいろな小学校にランチルームがあるが、学習活動をする教室とは全く違うところで、みんなと一緒に食べるという理想を追求した場合、それを目的とした部屋があるのがいいと思う。

【委員】 理想を考えることもいいと思うが、納税者の立場で言うと、理想を追い求め、極端に立派な施設は急には求めない。配膳スペースにも限りがある。中学生が1学年、例えば120名と一緒に集まるスペースがあるだろうか。確かにランチルームは理想であり目指すことはいいと思うが、イニシャルコストから考えて難しいのではないだろうか。

それから、地域のボランティアの協力を得る場合、それに携わる複数の方々の検便など、衛生管理の徹底も必要になる。将来的には必要なのかなと思うが、実際の運営も考えなければならぬと思う。

【委員】 イニシャルコストということに関して言えば、学校には、学習という点で先生に期待することが多い。生徒数が少なくなり、学級定数によって5クラスから4クラスになるというような現実を、まずそういったところにきちとした対応をしていただきたいという気持ちもある。現実的なことを考えれば、一方ではそういう考えもあり、立派な給食でなくていいからという思いもある。あくまでも理想的な部分についても記録として残しておいた方がいいのではないかという考えである。

【委員】 実現可能なところから入って、その中でいろいろな新しい方法をなるべく取り入れるようにしていくということではないか。

【委員長】 一月単位、あるいは学期単位、週単位という意見もあったが、もう一度、選択の期間について考えてみたい。この点で意見を伺いたい。

【委員】 細かくし過ぎると、徴収する事務手続でミスが起こりやすくなると思う。頼んだ、頼まないが出てくると思う。テレビで見たが、何千万も給食の未納が出ていて、市の職員が徴収に行って1件1件交渉をするが、いい暮らしをしているように見えても払ってもらえないということだった。その対策も考えなければならない。

プリペイド方式というのもいいとは思いますが、プリペイドカードもお金と同等のものなので、子供に持たせて失くすことなどの対策も必要だと思う。

【委員長】 何日前に申し込まなければならないという課題もあるが、給食の申し込み期

間ということについても意見を伺いたい。

【委員】 献立を立てる側からすれば、野菜など常時使うものはある程度間近でも調整がきくが、行事食などの場合には相当前から注文をしておかないと手に入らないものもある。確実に入手できないと献立に載せられない特別食、行事食を考えると、少し早目に申込期間を設定しないと献立がたてられないのではないか。

【委員】 給食費だが、武蔵野市の小学校5、6年生は240円集めているが、その使い方としては、大体1カ月の中で食材購入にあててるのか。学期くらいで食材購入にあててるのか。

【事務局】 献立は1カ月単位で立てており、大体1カ月の中で平均してというのが基本になっている。ただ、それで組んでいても、天候がちょっと変わるだけで野菜の値段が随分変わったりして苦勞する。最終的には年間で調整をすることになる。

【委員】 大体月単位での調整ということになると、期間も最低月単位ということになるのではないか。

【委員】 選択についてだが、弁当を選びたい人は、給食ではなく弁当を持たせたいわけだからずっと弁当だと思う。だから月単位といった細かい選択は必要ないと思う。基本的には全員給食ということで、今も、アレルギーで牛乳を辞退という例があると思うが、例えば個人の事情で弁当を選ぶこともできるという方法でいいと思う。家庭や個人の事情で弁当を選びたいという人だけが弁当を持ってくる方法でいいと思う。

例えば今中学2年生だと、中学校給食が実施されて給食を食べることはないだろうと思う。そうすると、今、小学生でこれから中学校に上がろうという人の意見をもう少し聞いた方がよかったと思う。学校で中学1年生の保護者に聞いてみると温度差は随分ある。

【委員】 季節的に弁当の状態がちょっと心配だから、給食がいいという人もいる。1ヶ月単位というのはわかりやすい気がする。

【委員】 特別な行事食みたいなものは必要ないのではないか。例えばクリスマスの前に特別に七面鳥のようなものを出すというようなことは、家庭でやればいいことで給食であえて出す必要があるのかと思う。

なお、申込期間については、1ヶ月単位でいいと思う。夏ばかりでなく、冬場だから温かい給食をとるという考え方もあるだろうし、必ずしも年間を通してどちらかということではなくていいと思う。

また、給食をとる家庭は、事前にきちんとお金を払って食べていただいたほうがいいと思う。未納という問題は武蔵野はそういう状況はあまりないと聞いているが、小学校では給食費をめぐっては徴収の過程ではいろいろあるようだ。そういうことも給食費では考え

ておきたいと思う。

【委員】 後半の方は賛成だ。払わない人は食べない。払えない家庭などの問題は別として、払う能力があれば払うべきだ。

ただ、前半の意見に対しては疑問がある。季節食、行事食というのは、クリスマスに七面鳥まで出すかは別にしても、やはり季節感とか伝統食とか、そういうものは給食だからできることもあると思う。ふだん食べないような食材も、伝統食とか、行事食という形で子ども達に伝えられる。そういうところも給食に望まれると思う。

【委員】 誤解を招いて申し訳ない。わざわざ一月以上前でないとそろえられないようなものをそろえてまで給食に出す必要はないのではないかということを書いたかった。

【委員】 季節感というのは、栄養士も意識して献立を作っていると思う。

【委員】 武蔵野市の献立を見ると、彼岸に合わせたおはぎなどがある。このような特別なものを用意する市は余り多くないのではないかと思うが、食材調達という点ではどうなのか。

【事務局】 一般的な食材であっても、こだわった選定をするものもあるので、あらかじめどれくらいの量が必要かという把握が必要な場合もある。献立は大体2カ月ぐらい前にたてて入札を行う。その際、入手できる状況や必要量を考えており、特に地元の農家から入れる場合は、八百屋に出回っているものとは違い、作物のでき具合を生産者に聞きながら決める必要がでてくる。実態としてはそういう苦労を栄養士等は担っている。特別な食材というのは、食材自体が特別なものだけでなく、普通のものでも入手経路や流通で多少時間がかかるという実態はある。

【委員長】 支払い方法だが、後で支払うか前払いにするか、もう少し意見を聞きたい。

【委員】 今の武蔵野市の支払い方法はどうなっているのか。

【事務局】 前の月の分を翌月払うという形で、毎月の引き落としになっている。

【委員】 それを前倒しにしたとして、引き落としできなかった子は、引き落としできなかったから翌月食べられないようなことはないのか。

【事務局】 払っていないから食べられないということも、ひとつの考え方としてあるが、現実に子どもに対して学校でどのように対応できるかということになると、難しい問題があるのではないかと思う。

【委員】 選択方式とするのであれば、給食費を支払わなければ、給食を食べる意思がないことになるのではないか。

【委員】 選択方式の検討の中では、アレルギー問題などの課題の解決という他に、いろいろな課題が出てきている。選ぶという方法によって、保護者の視点にもうまく対応でき

ないかと思っているが、学校の方からすると、一緒にそろわないから大変という意見も出た。この点をどう考えていったらいいかと思う。

なお、支払いについては、基本的に先にお金を支払うべきと思う。

【委員】 お金に関しては、例えば事前に払う、後で払う、どちらを選んでも払う意思のある人は払い、払わない人は遅れるのではないか。

でも学校現場からすれば、事前に払ってもらえるほうがいいのではないかと思う。

【委員】 今はどういう経済状況であれ、弁当を持ってきている。前払いであれば、払わなければ弁当を選択したことになり問題ないのではないか。

【委員】 子どもは、本当は食べたかったのに、申し込んでくれなかったということがあるかもしれない。

【委員長】 給食費についてはさまざまな意見をいただいたので、そろそろ次の課題に移りたい。中学校で給食を始めた場合、学校と家庭の役割分担として家庭ではどういうことをすべきか。食育の基本である家庭の役割について意見をまとめておく必要があると思う。このあたりを検討したい。

【委員】 中学生という時期は自立の時期になる。小学校では一斉給食で、準備をして食べるだけだったのが、選択制ということになると、子供も少し自立して、何を食べるかを考えなければならなくなる。こういう選択をする機会を与えることは、親にも子どもにも大切なことだと思う。若い人は、雑な食事をしているので、まず、自分の食事を考えさせることも必要だと思う。

【委員】 中学生は、成長のしかたも個人差が大きい時期だ。また、運動部の子と文化部の子では食べる量も違う。そういう面で、ちょっと気を使ってあげる、激しい運動をする日にはプラスワンを認めるような給食がいいと思う。

【委員】 中学校時代、運動部に入っていて先輩からおにぎりを持ってきなさいと言われて、持って行った経験があるが、運動量と食事の量が合わなかったと思う。

【委員】 自分の子供の食事を親が作るのは当たり前であるが、だからといって、子供の方が親に弁当をつくってもらうのが当たり前と思っていることについてはどうかと考えている。中学生ともなれば、食に対してある程度は自分で責任を持っていいと思う。我が家では、中学生になったら弁当箱は自分で洗う。洗ってなければ翌日親は弁当をつくらず、子どもが自分でおにぎりを握って持っていくというルールにしている。自分自身も何かしなければならぬということ、子供が感じることができることが大事だと思っている。

給食のありがたみを感じているが、例えば、特別に弁当の日を設けてもいいのではないかと思う。日ごろの給食で学んだことを実践する試みがあってもいいように思う。

高知県だったと思うが、給食を実施しているがごはんだけは炊いて持っていくという事例があると聞いた。ごはんを持っていくことによって、朝、家庭でもごはんを炊くようになるということだ。ごはんひとつとっても、例えばそういうアイデアもあると思う。どういう工夫をするかは別にしても、単に親が楽をしたために給食を実施するということではなく、保護者や子供自身に責任感を持ってもらい家庭の役割を明確にする。給食を実施することでそういうことを反映していくことができたらいいいという思いがある。

高知県だったと思うが、給食をやっているけれどもごはんだけは炊いて持っていくという変則的な給食が効果あると聞いたことがある。そうすると、朝、家庭でもごはんを炊くようになる。我々が求めているのは、単に親が楽をするためだけの給食ということではなくて、子供に責任感を持ってもらいたいとか、親がそれを見ながら、ああ、自分はちょっとまずかったと思うとか、そういうことが給食を実施することで反映していくことができたらいいいという思いがある。

【委員】 子供の成長期におけるエネルギー摂取量は個人差があるので、そこでどういふふうにしたらいいか考えてしまう。プラスアルファで、もし仮に主食だけ持つてくることにすれば、たくさん食べる子はそこで調節ができると思う。

【委員】 朝食欠食の解決につながるかもしれない大切な話だ。中学生がコンビニの前で座って、お湯だけもらっている姿を見ていると、何とかならないかと思う。それが解決できるのではと期待したい。

【委員】 学校における食育としては、指導體制の充実や学校給食の充実、それから健康状態の改善等の推進の面が挙げられている。

【委員】 朝食を食べさせて学校に出すのは家庭の役割だと思うし、やはり学校の先生に求める最大のものは、学習面できっちり教えてもらいたいということで、家庭でやるべき食育を学校で実施してほしいとは基本的に思っていない。給食という中で行うとすれば、ある程度別な体制を整えるべきだと思う。今も先生方が昼食時間にいろいろな配慮をいただいていると思うので、その範囲で十分だと思う。

主食を持っていくということも非常にいいと思うけど、温かいものを食べるという観点から言うと、冬場などは冷めてしまうところもあるので、冷たいものが苦手な子や食が細い子もいると思うので、温かい給食というのは大事にしたいと思う

【委員】 違う事例だが、高知県の学校で給食用のごはんを学校で子供が炊くと聞いた。1クラスに1つお釜があって米をといでごはんを炊くそうだ。それは衛生面でどう管理しているかわからないが、暖かいものを食べられるし参考になる面があると思う。このように工夫をしている参考例はいろんなところにあるのではないかと思う。

【委員】 主食を含めた完全給食ということで考えてきたが、主食のごはんを別にしたらどうかということだと、新しい展開になってくる。女子のダイエットなども考えると、主食を含めた給食がいいのではないかと思う。一定の枠の中でプラスアルファがあってもいいと思うが、その辺があまり無制限になるのは給食ということで考えると困る面もあるのではないか。

【委員】 給食ではまぜごはんのような、炊き込みごはんが多いと思う。いか飯なども出すのが難しくなるのか。

【委員】 給食にはミルク給食とか完全給食、主食給食、副食給食などがあり、給食のガイドラインにそって学校給食をやっている。それに合うように副食も献立を立てればいいが、ごはんだけを炊くとなると炊き込みごはんはなくなるかもしれないが、給食の献立は其中で工夫すればいいので、煮る、焼く、蒸すなどそれなりに主食がなくても工夫をし、ごはんを有効に使うことはできると思う。

議題2 その他

次回は2月15日木曜日、午後6時30分から市役所教育委員会室で開催することを確認した。

第8回検討委員会は、平成19年3月7日（水）、午後6時30分からと決定した。

委員より、資料要求があり、必要に応じて事務局が説明することにした。

(閉会)